

演奏前思い込め「頑張れっ！」

高校・中学校の軽音楽系クラブのコンテスト「第37回 We are Sneaker Ages

(スニーカーエイジ)」(産経新聞社・三木楽器グループ主催、大阪芸術大学グループ特別協賛)のグランプリ大会が25日、大阪市此花区の府民共済SUPERアリーナで開かれる。出場校の演奏前に、司会のイッシィさん(40)＝本名・櫻井裕子さん＝が「頑張れっ！」と力強く呼びかけるのが定番になっているが、この言葉に込めた思いなどを直撃した。

(格清政典)



ステージのメンバーを支える応援団の存在もスニーカーエイジの醍醐味だ

We are Sneaker Ages® きょうグランプリ大会

司会 イッシィさん (40)



スニーカーエイジの司会を15年も続けている「イッシィ」こと櫻井裕子さん

「もう15年もたってしまったんですけどねえ…。今ではすっかりライフワークになっています」

初めてスニーカーエイジの司会を務めたのは平成13年。このときのグランプリ大会は万博ホール(吹田市、現在は解体済み)で行われ、男性タレントと2人で進行していた。

司会を務めることになったのは「たまにたまタイミングが合っただけです」と説明する。実は、女性の司会は三木楽器グループの女性社員が担当していたが、前任者の退職が決まっていたために11年入社したイッシィさんに白羽の矢が立ったという。「大学時代に軽音楽はしていますが、司会経験はまったくありませんで

した。あのときは、男性タレントの進行についていくだけでした」と振り返る。

ところが、同社が全社を挙げた手作りイベントを目指す方針を掲げ、17年から1人で進行を担当することに。グランプリ大会全般の進行だけでなく、次に演奏をするチームの楽器セッティング時間を使って、演奏が終わったチームにインタビューを行っている。

「1人で司会することになって、自分で進行役に徹することになっています。出演者には事前に『こういう質問はする』と伝えていますが、生徒によって受け答えはさまざま。時間配分の難しさを感じています」

そんなイッシィさんの決めゼリフが、

出場校の演奏前に呼びかける「頑張れっ！」の一言だ。

「頑張れっ！」という言葉は、頑張っている人間にさらにプレッシャーを加えることになる指摘され、最近ではあまり使われなくなっている。しかし、イッシィさんの力強い言葉に「本当に力になって、頑張ることができた」などという感謝の声が、出演者だけでなく保護者や関係者から寄せられるようになり、イッシィさん自らも勇気づけられているという。「グランプリ大会ではいっぴいの気持ちを入れて、思いっきり声を出しています。これからは『頑張れっ!』の言葉の重みを感じながら、言葉のありがたさを伝えていきたい」と話す。

約15年間にわたって、スニーカーエイジに携わってきたことについて天命だと感じているという。予選会からグランプリ大会に至るまで、ほとんどの出演者たちと接してきた。メンバーのまっすぐにひたむきに音楽と向き合う姿勢に「大人になっても学ぶことばかり。スニーカーエイジに携わる人たちが全員を応援したいし、スニーカーエイジの素晴らしさを伝える代弁者になりたい」とも語る。

そのうえで、グランプリ大会に出演するメンバーに対して「優勝」の『優』の字には、「優れた」の他に「優しい」という読み方もあります。人に優しく接して、周りの人に感謝して、悔いのない演奏をしてほしい」とのメッセージを送る。

ステージでの演奏に注目が集まるが、スニーカーエイジの醍醐味は出演者を支える応援団にある。

「良い演奏をするには、良い応援が必要不可欠。良い応援をするには、クラブ自体が変わらないといけません。良い応援をしている学校は、1年後に素晴らしい演奏をしてくれる。それが楽しみです」

良い演奏には良い応援が必要不可欠 出演者や保護者も「勇気づけられた」